

番号	意見（原文掲載）	意見に対する回答
1	① 市内住宅における省エネ、再エネ機器導入促進 今迄は、例えば太陽光発電設備の設置費用の一部を負担する形で推進を図ってきました。しかし、最近ではP P Aモデル、或いは第3者所有モデルと呼ばれる、業者が無償で設置し家主はつくられた電気を購入するだけ、という方式が増えつつあります。私の勤務先でも契約が終了して、現在工事中、8月頭から稼動する予定です。こうしたケースにも対応する支援策を検討されたいかがでしょう。ニュースによると、本ビジネスモデルは自家消費を目的として当面は企業などに、その後一般家庭に展開していくという事ですので、今後増えるかもしれません。 ② プロジェクトを推進するための数値目標 リサイクル率（蓮田市を含む） 環境省の令和2年目標が27%の中、31.8%という高い目標は結構なことです。表を見る限りリサイクル率は毎年低下し、思惑通りには進んでいないようです。そもそも白岡市はごみ分別という意味では、私の知る範囲では最も緩い自治体に含まれるようです。高い目標を掲げるなら、この結果を受け少し分別を細かくして「直接資源化率」を上げる、などの施策をとるべきではないでしょうか。	今後は脱炭素社会の進展に伴い、初期費用やメンテナンス費用が一切不要で、自社で発電した電気を自家消費する事業モデル（P P A）が普及する中で市内の一般住宅にも当該モデルが普及、浸透していくものと思われます。このような状況の中で、本市における白岡市創エネ・省エネ促進事業による補助制度も社会情勢の変化に合わせ、改正が必要になってくると思いますので、しかるべきタイミングを計って、市民ニーズに寄り添ったより良い制度を構築したいと思います。 蓮田白岡衛生組合に確認したところ、令和2年度のリサイクル率の目標値である31.8%については、平成27年3月に策定した「蓮田白岡衛生組合一般廃棄物処理基本計画」に定めた令和2年度の目標値ですが、ペットボトルの製造技術の向上による軽量化やペーパーレス化などの影響により、資源物の回収量（重さ）が大きく減量し、資源化率は、当初の目標値を大きく下回る状況となっております。 今後は、燃えるごみとして排出されている紙ごみの分別徹底と市民の皆さんのごみ減量に対する意識向上が重要でありますので、蓮田白岡衛生組合では、令和2年8月に「一般廃棄物処理基本計画を推進するための行動計画」について諮問

	③ 農地の集積、有効利用 「ひこべえの森」の様なサンクチュアリの保護支援も大変結構なことと思いますが、白岡市の緑の多くは、農環境。今までは、農地→宅地という開発があって人口も増えてきて、それが街の発展の形でした。しかし、今後はもうないでしょう。もう人は増えず、住宅も増えません。 農地を農地として管理し、宅地エリアと共存させることが美しい白岡を維持する上で重要だとおもっています。 是非、積極的な施策をとってください。 ④ 豊かな自然の保全プロジェクト（総括） 自然環境だけでなく、歴史的景観の保全を図ることからも・・・ このお考えに賛成です。最近思いついて白岡にある31の神社を歩いてみました。改めてその歴史と神社周辺の自然環境の魅力を知ることになりました。残念なのは、拝殿、社殿などの管理が不十分なところが散見され、今後が心配になること。周りの自治会など通じて、対応を強化できないものでしょうか。 ⑤ 市民エコ生活推進プロジェクト このプロジェクトは特に環境学習会、ごみゼロクリーン	機関に諮り、市民、事業者及び行政が協働して取り組むごみの減量や数値目標の達成に向けた具体的な行動計画について、審議を進めているところです。 農地の有効利用を促進し、宅地エリアと共存させるべく農地流動化奨励事業をより一層推進し、農地の集積を図ると共に、優良農地の保全、低利用農地及び遊休農地の有効利用を進めてまいります。 現在策定中の「白岡市文化財保存活用地域計画」に則り、市内の歴史的景観の保全に努めてまいります。 また、神社の拝殿、社殿の適正な管理を進めるよう、氏子や代表宮司、さらには地元行政区に依頼いたします。 ウィズコロナ時代のイベント開催については、参加者の安全の確保が最優先されます。
--	--	---

運動などのイベント、色々な形の啓蒙活動が中心になっています。

全てで言えることですが、新型コロナウイルス問題によって、今後こうしたイベントの企画開催においては、with Corona、或いはもっと一般化して新常态と言われているような新たな考え方が織り込まれる必要があります。

今年度、或いは第2次環境基本計画の中で議論していただきたい。

⑥ 令和2年度 当初事業

令和元年度実績報告と同じ資料だと思います。過去も、基本的には同じスタイルだったように思います。当初に立てる計画がこれだと、10年間同じことをし続けるという事になりますね。市役所には色々と御事情があるとは思いますが、これでは「進捗管理」にならず意味のない事をしても仕方ありません。第2次計画では、違った形での進捗管理を期待します。

⑦ 第2次環境基本計画骨子

5. 計画の全体構成(案)の第2章に「白岡市が将来目指すべき望ましい環境像、それを実現するための目標について示します、とあります。まさに、これが肝要ですね。

開催計画時から準備時、開催中といった感染対策が必要であり、今後は感染リスクに配慮したイベント開催に努めてまいりたいと存じます。感染対策については、オンラインによるものが有効であることも認識しております。

しかしながら、オンラインの環境面や機材等を整える必要や操作面での不安のほかに物足りなさを感じるといった意見が聞かれます。

一方、リアルイベントについては参加者のモチベーションが上がることや、会場でしか味わえない雰囲気や体験を大事にしたいという意見が聞かれます。

今後はこのような意見を参考にイベントの内容を考慮し、開催を検討してまいります。

御指摘の進捗管理については、PDCA環境マネジメントサイクルに基づき、次年度以降への課題、反省、見直し等を加味した内容を反映したスタイルに変更し、適切な進捗管理を行ってまいります。

社会経済情勢の変化、新たな課題の出現等、環境行政を取り巻く状況は大きく変化していることから、本市の望ましい環境像や目標、施策について再検討し、環境施策の総合的かつ計画的な推進を図りつつ、市民にとってもより具体的で分

	是非、具体的で分かりやすい将来像を示していただきたい と思います。	かりやすく、親しみのもてる将来像にいたしました。
2	1 課題は広範囲にわたりますので、詳細にわたり意見を述べることはできませんが、これらの検討事項が市民に伝わっているかはなはだ疑問です。審議員の私であれ認知していない項目がかなりあります。 2 市としての取り組みを市民に周知させるためには私達の認識をはるかに超えた環境の悪化状況を再認識すること事体が必要になります。 3 そのためには、広範囲の環境問題を議論審議するためには年1, 2回の審議会では全く不十分であり、体系化した問題点を毎月位の単位で審議していく必要があると考えます。 4 市レベルでどの範囲の問題を議論するか意見の分かれるところではありますが、今や環境問題は地球レベルでの議論が必要であります。そのような観点から議論範囲の概略を決めておくべきかと考えます。	御指摘のとおり環境問題に関する課題は、複雑かつ多岐に及んでおります。あらゆる機会を通じて、市民への周知に努めてまいります。 市としての取組を通じて、市民に対して現在の環境状況を認識していただくため、創意工夫を重ね、より具体的で分かりやすく、親しみのもてる施策を実行できるよう努めてまいります。 環境審議会は、「市、市民、事業者」の三者協働による本市の望ましい環境像を追求するための市長の諮問機関であり、その諮問に応じて開催することとなっております。今後はこれまで以上に会議の内容の充実に努めてまいります。 環境問題に関する課題は、複雑かつ多岐に及んでおり、また、市民一人一人の取組で解決できることから、国内外を問わず全世界が協調して取り組んでも容易に解決をみないこともあります。 しかし、どのような環境問題でも市民一人一人の行動の積み重ねが重要だと思います。自由な議論ができる環境を整えてまいります。

5 かつての審議会では私は審議員の方々に、地球について、又地球環境の基本的な知識があるか質問しようとした時に環境課の職員から「ここはそのようなことを議論する場ではない」と制止されたことがあります。今こそ白岡市として、できる範囲で議論を広め進める時であると考えています。海外では最近ではグレタ・トゥーンベリさん、古くはセヴァン・カリス・スズキさんら10代後半の子供達であれ高い見識での問題点を提起しています。 6 白岡市として市民が感じている問題点を収集してより高い観点からの議論を深めるべき時にあると考えています。言うや易しです。そのためには先ず審議会開催頻度を高めるよう要望致します。 7 また、審議員を中学生・高校生からも募るべきと考えます。将来を担う環境問題は今から若者に関わらせておくべきです。私のような老人の域に達している者を含め、中高年の方々が抱く環境意識を高めるのは至難です。 8 最後になりますが、環境問題に関する資料は後の世代が検証しやすいよう、平成や令和のような元号で表示するのではなく、西暦で表示するか併用して下さるよう強く要望致します。	環境問題に関する課題は、複雑かつ多岐に及んでおり、また、市民一人一人の取組で解決できることから、国内外を問わず全世界が協調して取り組んでも容易に解決をみないことまであります。 今後も幅広い環境問題について、様々な年代からの意見も聴取してまいります。 なお、今回の計画の策定に当たりましては、10歳代の男女からもアンケートの回答をいただいております。 環境審議会は、「市、市民、事業者」の三者協働による本市の望ましい環境像を追求するための市長の諮問機関であり、その諮問に応じて開催することとなっております。今後はこれまで以上に会議の内容の充実に努めてまいります。 審議会委員につきましては、幅広い年代から意見をいただくことは大変有益であると考えます。審議会委員を含め幅広い意見の聴取に努めます。 第2次環境基本計画中の年代の表記は、一部の表やグラフ等を除き元号と西暦を併記することを基本といたしました。
--	--

3	① 環境基本計画進行管理票（元年度）について 実績成果が殆どの項目についてB：計画通りとなっていますが、昨年度も指摘しましたが目標に対する達成度の判断基準があいまいです。 ② 環境基本計画進行管理票 事業の設定が表面的な課題が見受けられる。	御指摘の進捗管理については、PDCA環境マネジメントサイクルに基づき、次年度以降への課題、反省、見直し等を加味した内容を反映したスタイルに変更し、適切な進行管理を行ってまいります。 また、可能な限り数値目標を掲げ、達成度が分かりやすいよう努めてまいります。 御指摘の進捗管理については、PDCA環境マネジメントサイクルに基づき、次年度以降への課題、反省、見直し等を加味した内容を反映したスタイルに変更し、適切な進行管理を行ってまいります。 また、可能な限り数値目標を掲げ、達成度が分かりやすいよう努めてまいります。
4	○ 緑のカーテン設置助成について、ただゴーヤを配布するだけでなく、講座受講者を対象としたことは、効果の上がるとても良い方法だと思います。 ○ 環境学習会参加者が過去最高の参加人数となったことは素晴らしいことだと思います。「どういった方法で参加人数を過去最高としたのか」を他の施策にも応用できると、さらに良いと思います。 ○ ごみゼロ・クリーン運動について、地域住民同士の関係の希薄化が要因であるのなら、大山地域元気会議や菁莪あおぞら会など、地域活性化に取り組む団体との連携を検討してみتهいかがでしょうか。ごみ拾い自体をイベント化	緑のカーテン設置助成については、今後とも画一的な手法に拘ることなく、より創意工夫を加え効果が上がるよう努めてまいります。 環境学習会は、令和3年度より、従来の年2回開催から3回開催に移行し、環境の保全及び創造について、自ら考え行動する市民を養成することを主眼に中高年から高齢者までが関心の持てる内容を厳選し開催してまいります。 近年のごみゼロ・クリーン運動の参加者減少に歯止めをかけるべく、「市、市民、事業者」の三者協働による連携の下、開催できるよう努めてまいります。

	することで盛り上がっている部分もありますので、他地域やごみ拾い団体の活動なども参考にされてはいかがでしょうか。私個人としては、柴山沼のごみ拾いをイベント的にやってみたいと思っています。例えば、県内（桶川市）に本社のある釣り餌メーカーで国内シェアトップの「マルキュー」さんなどをスポンサーに、埼玉県で２番目に大きい自然沼であり釣りの名所でもある柴山沼のクリーン活動を企業のＣＳＲ活動として実施してもらうなど。 ○ 総括の低炭素社会構築プロジェクトについて、「身近な場所において低炭素社会を目指す啓発活動を実施する必要がある」とありますが、再エネ機器導入への補助だけでなく、啓発活動への補助も検討されてはいかがでしょうか。例えば、市民、企業、団体が講演会（内部的なものも含め）を行う際の講師料や交通費も対象にするなど。または民間が行う環境学習会の運営費の一部も補助対象に含めるなど ○ クビアカツヤカミキリは本当に危ないです。ＣＥＳＳ（埼玉県環境科学国際センター）との連携を ○ 市民エコ生活推進プロジェクトに関して、「自然に親しむ機会を設けることで自然へ配慮したエコ生活につなげる取り組みが必要」とありますが、それは理想ではありますが正直、自然からエコにつなげるのは難しいと思います。それよりも少し前から話題になっている行動経済学の「ナ	御提案の環境イベントについては、市と市民との参画と協働によるまちづくりを推進するための事業を実施する地域団体に対して、補助を行う「白岡市協働のまちづくりモデル事業補助金」があります。 今後、当該補助金の活用についても検討してまいります。 本市ではクビアカツヤカミキリの発生は確認されておりません。今後もＣＥＳＳと連携を図りながら、引き続き動向を注視してまいります。 自然に親しむ機会の提供により、啓発された市民が直ちにエコ生活に繋げる取組を行うか否かについては、御指摘のとおり時間を要するものと考えております。 御提案いただきました行動経済学の「ナッジ理論」については、効果的であると考え、今後の事業展開の際に活用して
--	---	--

	ッジ」を活用した取り組みを検討した方が効果的ではないかと思います。 ○ 最下段の「連携による取り組みを目指し事業を展開する」とありますが、実績があるのであれば事例集を市民や事業者に展開することで「自分のところでもこれなら出来そう」という発想が生まれ取り組みが加速するのではないのでしょうか ○ 最下段2行目の「自然環境に配慮する意識が根底にある」と書かれていますが、ゼロではないと思いたいですが、そうではないでしょう。下衆なことを言うようですが、人間の根底にあるのは「自らの利益になるかどうか」です。自然を守ることが自らの利益になることに気づいて行動している人は、まだまだ少ないのが現状です。（その証拠の地球温暖化には歯止めがかからず、毎年、豪雨災害で多くの人が命を落としています）それよりも経済性に注目しているのが創エネ省エネ機器導入者の本音ではないのでしょうか。（ヒアリング結果によると「防災」目的が多いように読めますが）または、コロナで分かったように、人が行動するためには自らの命に関わることであるという気づきと緊急事態宣言などの発令です。繰り返しになりますが、近年の自然災害のように環境問題は自らの命に関わることであるにもかかわらず気づいていない人が多いのが現状です（熊本の新型コロナ感染症での死者数は3人ですが、令和2年7月豪雨で死者は60人を超えています）	まいります。 事例集の作成については、今後、検討してまいります。 自然を守ることが、市民の命を守ることに繋がるという共通認識が培われるよう、各事業展開において、自然環境に配慮した意識啓発に努めてまいります。
--	---	--

○ つきましては白岡市でも気候非常事態宣言の発出を検討すべきかと思います。（世界ではすでに世界ではすでに1000を超える自治体から出されていますが、日本では、その動きが出始めたところも含めてまだ34のみです） ○ 1－2のヒアリング結果に蓄電池について書かれていますが、どのように運用されているかも確認されているのでしょうか。太陽光発電した余剰電力を蓄電池にためて自家消費するという使い方であれば環境に配慮していると言えますが、夜間の安い電力を蓄電池にためて昼間に使うなど金銭的な節約のために導入されているということはないのでしょうか。 ○ 1－3のヒアリング結果について「市内事業所と連携した取組の実施に課題」とありますが、何が課題なのかが分かりませんでした。緑のカーテンの設置事業所が少なかったということでしょうか。企業の場合は「社会的責任×経済性×労力（人手）」を計算して導入を決めるので「環境に優しくて、電気代が節約になるけど、設置したり毎日の水やりが面倒なことはやりたくない」という本音もあるかもしれません。ぜひ企業に直接ヒアリングをして課題を掘り出してください。想像だけでは本当の答えは分かりません。 ○ 1－4グリーン購入100%を目指してもらいたいところですが、予算の優先順位もあるでしょうから「予算の範	「気候非常事態宣言」については、国が掲げる2050年カーボンニュートラル目標を達成するためには、必要であると考えていますので、今後検討してまいります。 蓄電池については、補助申請の際に、必ず現況写真を添付いただいておりますが、太陽光発電設備との連携をせずに単独で夜間電力のみを蓄電しているケースは見当たりません。今後も制度の趣旨に沿った活用をお願いしてまいります。 市内事業所の選定には、市商工会の協力を得ていますが、選出企業にはゴーヤの苗木、プランター及び土を数セット配付するだけで、市民への講習会への参加を前提としていないことから、取組の実施に課題があるとしたものです。なお、御提案の企業への直接ヒアリングについては、実施に向け検討してまいります。 グリーン購入100%や環境分野での予算の配分の増加については、財政難で予算の確保は難しい状況ですが、予算の
--	--

	囲内」というのはやむを得ませんね。しかし、このまま気候変動が進めば防災対策や夏の熱中症対策などにとられる予算がどんどん膨らみますので、10年、20年先を見据えると、環境分野への予算配分を今のうちに多くしていただきたいものです。 ○ 1－6について「COOL CHOICE」には賛同していますか。環境省はライトダウンなどの施策も展開していますが、中心となっているのがCOOL CHOICEです。ぜひ、こちらを前面に出して啓発をされてはいかがでしょうか。市民一人ひとりの未来のための選択は重要です。 ○ エコライフDAYですが設置場所が少なすぎです。行政区を通じて回覧に入れてしまっただけではいかがでしょうか。もしくは行政区長に全戸からの回収を依頼するなど。小学校などからも持って帰ってきますが、回収率が低すぎではないでしょうか。教育委員会と連携し全児童、生徒から回収できるようにするなど。エコライフDAYは簡単で良いツールです。 ○ 1－7教育委員会という意味では、総合学習を使ってESDの導入をされてはいかがでしょうか。県内には越谷市立大袋東小やさいたま市立海老沼小などESD導入の先進事例がありますので、ご参考にされてはいかがでしょうか。	範囲内で職員の創意、工夫により少しでも環境負荷を低減できるよう努めてまいります。 御提案のとおり、COOL CHOICEの啓発を推進してまいります。 エコライフDAYは、現在過渡期であり、実施主体の埼玉県も基本的な在り方について県内63市町村にアンケートを取るなど模索中です。回収を前提とせず個々人の主体性に任されているのが現行モデルです。今後におきましては、実施方法などについて埼玉県の動向を注視しながら、検討してまいります。 単なる知識の習得や活動の実践にとどまらず、日々の取組の中に、持続可能な社会の構築に向けた概念を取り入れ問題解決に必要な能力・態度を見に付けるための工夫を継続していくESDは、教育目標の達成のみならず主体的に行動し自ら環境問題に対して気づき、率先垂範する能力を培う可能性
--	--	---

	○ 1－7ヒアリングについてですが、エコアクション21等もそうですが、ぜひCOOL CHOICEへの賛同を事業者へも促してください。 ○ 数値目標のリサイクル率が低いですね。こちらについては、どこが課題なのか把握されていますでしょうか。課題が分からなければ改善のしようがありません。私はデータを持っているわけではありませんが、周囲との会話やゴミを見ていて思う所は「雑紙」を資源とっていない人が多いように思います。BOXティッシュの箱などが緑の袋に入れて捨てられているのをよく見ます。菓子箱もそうですね。その辺りはデータがあるのであれば開示して啓発し、データがないのであれば収集員の方にヒアリングなどをしての感覚値でも良いのではないのでしょうか。ポイントを絞って啓発をされてはいかがでしょうか。また、プラスチックトレイなどは分別回収の仕組みが無く環境センターではすべてゴミになってしまうのではありませんから、スーパーマーケットなどの回収箱への持ち込みなどをオススメしてはいかがでしょうか。市民としてはごみを減らせればゴミ袋代を節約でき、スーパーとしては来店客が増加し、市としてはごみ	を秘めた教育法の一つであると考えています。 白岡市内の小・中学校でも、指導計画の中にE S Dを取り入れて環境教育を実践してきた学校もあります。今後は、S D G sでの取り組みと並行して、より有効な環境学習が教育現場で展開されるよう、働き掛けてまいります。 御提案のとおり、事業者に対し、COOL CHOICEの啓発を推進してまいります。 御提案のとおり、今後は燃えるごみとして排出されている紙ごみの分別徹底と市民の皆さんのごみ減量に対する意識向上が重要でありますので、蓮田白岡衛生組合では、令和2年8月に「一般廃棄物処理基本計画を推進するための行動計画」について諮問機関に諮り、市民、事業者及び行政が協働して取り組むごみの減量や数値目標の達成に向けた具体的な行動計画について、審議を進めているところでございます。 今後も分別について、市民の意識啓発に努めてまいります。
--	--	---

	削減につながるwin-winの取り組みではないでしょうか。 ○ 埋立処分量の急増は何があったのでしょうか！？ ○ 1-2 柴山地域では梨の木がバッサバッサと切られていて悲しい気持ちになっています。その一方で新たに梨農家を始めようという若い人も見受けられます。切られる前に、その人たちをうまくつなぐことができないものではないでしょうか。 ○ 1-3 柴山沼にいたるブラックバスやブルーギルは対策の対象にはならないのでしょうか。こちらもいつか「池の水ぜんぶ抜く（テレビ東京）」でやってもらいたいものだと思いますが、柴山沼はバス釣りの名所になってしまったため、釣り人がたくさん集まります。しかし、近くに飲食店や土産物店もないため地元には人が集まることのメリットがなく、むしろゴミばかりを落としていかれて地元が汚れるだけだと思っています。もし池の水ぜんぶ抜くで採用されることになった際には全面協力をお願いいたします。 ○ 1-6 柴山沼でも美化活動を行いたいと思っています。その際には、ゴミ袋やトンゴの費用補助や集めたごみの処	埋立処分量の急増は、桶川市からの一般廃棄物を受け入れたことによるものです。 農業委員会では農業従事者のマッチングを支援しております。また、農政課では、地域の話合いを基に地域農業の方向性を定める計画を策定し、農地集積を推進しております。 現行の梨栽培農機具導入費用の補助だけでなく、今後も梨栽培が継続できるよう、各関係機関と協力して取り組んでまいります。 柴山沼は農業用のため池としても使用されているため、地域農業に影響が生じる可能性があり、番組への協力をすることは困難です。 また、以前に同番組の制作会社から番組協力の依頼を受けましたが、同様の理由でお断りさせていただいております。 市民の主体的な意思に基づき行っていただく「環境美化活動」では、当該ボランティア活動に際して必要となるゴミ袋
--	--	---

理費用の負担を市で請け負っていただけると開催しやすくなると思います。こどもエコクラブとも連携したいですね。 ○ 1-7 ヒアリングについて、単発の自然学習を学習する機会だけでなく、E S Dとしての教育の提供をご検討ください。 ○ 1-8 イベント情報などの発信に、市の公式Twitterなど活用されていますでしょうか。フォローしていますが見た記憶がありません。また、イベントの情報発信はイベントでやるのが一番です。なぜなら、そこにターゲットが集まっているからです。市内のイベントなどに出向いて積極的にチラシ配布を行うなど、できることはもっとありそうな気がします。 ○ 1-1 「総合的な学習の時間において、環境問題についてふれ」とありますが、先生の知識レベルとしてはどの程度のものなのでしょう。現代の環境問題は科目の中にあるわけではないでしょうから、どの程度のふれ方で、どの程度子どもたちの印象に残るのか疑問です。それよりもE S Dを掲げて取り組んだ方が良くはないのでしょうか ○ 1-1 「親子エコスクール」を知りませんでした。広報はどのようにされたのでしょうか。広報しらおか？駅貼	や軍手は無償提供すると共に、集めたごみを分別のうえ1ヶ所に集積いただければ、事務局にて無償で回収しておりますので、御活用ください。 白岡市内の小・中学校ではE S Dとして環境教育を実施している学校も増えてきています。 さらに有効な環境学習が教育現場で展開されるよう、今後も働き掛けてまいります。 現在、環境課では生き物調査を始め、空家バンクやエコライフDAYなどの情報発信については、市の公式T w i t t e rを活用しております。また、他課のイベント開催の際に、チラシを配布するなど工夫を試みたいと思います。 E S Dの有用性を教育委員会や学校に理解していただいております。総合的な学習の時間以外にも教科横断的な活動や家庭や地域での取り組み等、持続可能な多様な場面で実践していただいております。今後は、より有効な環境学習が教育現場で展開されるよう、働き掛けてまいります。 「親子エコスクール」については、主に広報しらおかや駅の自由通路に設置してある市の掲示板や小中学校へのポスタ
---	---

りチラシ？公共施設への設置？また、こどもエコクラブとの連携などがありますでしょうか。 ○ 1－3 NPO環境ネットワーク埼玉さんなどを頼ってみても良いのではないのでしょうか。例えば県の地球温暖化防止活動推進員の事務局なども担当されているので、県内の環境の全般を把握されていると言っても過言ではない団体です。待っていても来ませんので、環境課さんから積極的にアプローチをかけていかれた方が良いと思います。例えば白岡市在住の推進員さんにアプローチをかけて知っている団体を紹介してもらうなど。SDGs 17番目の目標にもあるパートナーシップは重要です。 ○ 1－8 「エコドライブに努めましょう」とありますが、まず市の職員の方はいかがでしょうか。職員の方のエコドライブ認知率や実施率などを確認してみてもいかがでしょうか。例えばペーパーアンケートで。エコドライブ10のすすめのうちご存知のものを記入してくださいなど。市民に対してやってみても良いかもしれません。一般の方はエコドライブが何たるかをご存知ない方がほとんどです。また、そのメリットもご存じないわけで、知らなければ「努めましょう」と言われても実践できないわけで、やらせる前に知らせてはいかがでしょうか。自治会単位でエコドライブ講座をやりましょうか？もしくは行政区に回すエコド	一の掲示を通じて、依頼しています。また、たばこのポイ捨てキャンペーンの際に、啓発品のティッシュと一緒にチラシを配布したり、学童保育所にチラシを配布するなどして周知を図っております。 現在ホームページで団体登録制度を周知しておりますが、登録数の増加には至っておりません。 NPO法人等を活用し、環境保全活動団体の活性化を図ることができるよう、検討します。 令和3年度に本市では、「環境学習会」の充実を図り、従来の「バス研修」、「親子エコスクール」に加え、地球温暖化対策の啓発の一環として「エコドライブ」を題材にした市民対象の「環境学習会」を開催する予定です。職員対象のアンケート実施についても検討してまいります。
--	---

	ライブチラシの監修をします。 ○ 1－8 「レジ袋の配布を断る人が見られる」、エコバッグを持つ「市民の姿も多く見られるようになり」とありますが、表現が非常に曖昧ですね。数値はないのでしょうか。また、レジ袋をもらわない理由は何でしょう。 「お金がかかるから」や「ポイントをもらえるから」などの経済的な理由であれば、やはり行動経済学のナッジを活用すべきという結論になるのではないのでしょうか。レジ袋が有料化されましたので、今後はその影響が大きいです。数値を入れるのであれば市内のスーパーなどからデータの提供を受けてはいかがでしょうか。 ○ 数値目標について、環境学習会参加者の人数が過去最多は素晴らしいですが、このまま増え続けて目標の100人まで受け入れるキャパはあるのでしょうか。 ○ エコライフDAYの参加率が低いですね。ちなみに、こちらの数値はどのように算出されているのでしょうか。分母は配布枚数？人口？また、他の自治体さんの参加率はどうなっているのでしょうか。白岡は低いのか高いのか平均的なのか。 ○ 「環境保全型農業推進協議会」	買物客の何%の人がレジ袋を断るか、数値で表せれば分かりやすいと思われますので、市内のスーパーマーケットにデータがあるかを確認いたします。 会場のキャパシティは、はびすや生涯学習センターの集会施設やコミュニティセンターの舞台ホールがありますので、十分に確保できます。今後とも、市民ニーズにマッチした興味深い内容を適切にわかりやすく提供することに努めてまいります。 参加率については、配布枚数を人口で除した値を百分率で小数点第2位以下を四捨五入し表記したものです。なお、全県的にアンケート結果を回収しないこととなっていることから、他市町村の参加率は把握しておりません。 環境に優しい農業の確立や、消費者に対する安全で高品質
--	---	---

	環境保全型農業というのが何を指しているのか分かりませんが、大山地域では明らかにプラ系の農業資材を野焼きしているのを見かけますが、そうしてしまうには何らかの理由があるのだと思われます。例えば費用の問題であったり、手間の問題であったり。単純に意識の問題かもしれません。答えは、それをしている本人にしか分かりません。しっかりと把握して対策していただきたいものです。 ○ 「ホタルの復活」 知りませんでした。ホタルは貴重です。ホタルの復活を目指している。こういったことこそ、もっと市民に周知して自然を守ろうという意識啓発に使ってはいかがでしょうか。子を持つ親であれば、子どもにホタルを見せてやりたいからゴミをポイ捨てしないようにしなければ等と考えられるようになるのではないのでしょうか。 ○ 「家庭での適正な排水処理の啓発」 適切な排水処理とは具体的に何でしょう。浄化槽の話でしょうか？それとも油の処理などの話でしょうか。もしくは雨水を下水に流さないというお話でしょうか。いずれにしても、イベントなどで、その情報提供を見たことがありません。つまり、そのくらい人の印象に残らないということではないのでしょうか。 ○ 「ごみの収集分別方法の周知」 上にも書きましたが、ただ分別方法をホームページなどに	な農作物の提供等の有機農業を振興する農業を環境保全型農業といいます。 協議会では、環境保全の観点から農業用廃プラスチックの収集及び処分を行っており、比較的安価な費用で処分をすることが可能です。しかしながら、農業従事者の中には、野焼きなど不適切な処分をする方もいます。より効果的な対策が講じられるよう、担当課に働き掛けてまいります。 ホタル復活の市民団体は、先ごろ、解散を余儀なくされました。今後も、改めて水辺環境の保全と美化活動の啓発について、検討してまいります。 油やしょうゆ、みそ、お酒などは流しに流さないよう日常生活から出る排水に気を配り、市のきれいな水環境を守る意識を持つよう引き続き、市民に広報やイベント等を通じて情報提供と意識高揚を図ります。 御指摘のとおり、ごみの分別方法を単純に蓮田白岡衛生組合の該当ページへリンクさせるだけではなく、検索の際合わ
--	---	--

	掲載するだけでなく、ポイントを絞って課題となっている分別について周知をされてはいかがでしょうか。今月は「雑紙」。来月は「生ごみの水切りの重要性」など。 ○ 「環境リスクコミュニケーションの推進」 どの程度の回数、頻度で行われているのでしょうか。 ○ 「野焼きの防止」 大山地域でも例外として認められている稲わら、畔の草、剪定枝に紛れてプラ資材が償却されているのが残念です。苦情を出したことはありませんが、洗濯物に臭いが着いたり、24時間換気の住宅ですと窓を閉め切っても換気システムから臭いが入ってきてしまいどうにもなりませんのでしっかり啓発をしていただきたいものです。 ○ 「環境パトロール」 かなりの回数実施されていて助かります。何名で何時間パトロールされているのか分かりませんが回収量は適正でしょうか。1回あたり12.5kg。ゴミが少ないというこ	せて月毎の分別上の課題を周知させることは非常に意義深いので、ごみの一層の削減の観点から蓮田白岡衛生組合へ提案してまいります。 なお、蓮田白岡衛生組合においては「環境センターだより」を発行し、2020年6月号において、「家庭から始めるごみの減量」として特集を組んでおり、「生ごみの水切り3ステップ!」や「やってみよう!レッツトライ!雑紙を徹底分別」とした記事を掲載し、ごみの減量に取り組んでいます。 平成28年度の日産化学での実施以降、受け皿となる企業の受入れ態勢が整わず実施しておりませんが、今後は積極的に環境コミュニケーションが企業において取り組まれるよう、周知啓発を行ってまいります。 野焼きは農業活動に伴う行為のほか、原則的に環境保全の観点から、禁止されております。市でもパトロールや通報を受けて、行為者に注意、指導をしております。今後におきましても、野焼きの防止について意識啓発してまいります。 環境パトロールは、シルバー人材センターへ委託しています。1日当たり2名、2時間の市内巡回で年間48日実施しております。環境美化を図るために、不法投棄が頻繁に発生している各所を中心に回り、不法投棄されたごみを早期に回
--	---	--

	とであれば良い事なのですが。 ○ 「不法投棄防止看板の設置」 看板も掲示内容にナッジの活用をご検討いただければと思います。どこにでもある「監視中」や「ポイ捨て禁止」では見慣れてしまって効果がないように思われます。例えば「この田んぼで採れたお米は、あなたの食卓に並びます。それでもごみを捨てますか？」など。また、一度設置した看板の内容を定期的書き換えるだけでも違いがあると思います。 ○ 「再生可能エネルギーのPR活動」 「環境学習会等のイベントで」とありますが、59人が参加した学習会以外にも啓発されていますか。もし59人だけだとすれば少なすぎはしませんか。 ○ 「低公害車・アイドリングストップの啓発」 実績をやや下回るということですが、前回の審議会でお話させていただいた通り、自動車対策はとりわけ重要です。啓発の方法は色々あります。全国にも数少ないエコドライブの専門家が白岡市にはいるわけです。一緒に考えさせていただければと思います。 ○ 「白岡市節電実行計画に基づく夏期の節電対策」 どちらで周知をされていますでしょうか。環境課前のラックだけでは目にする人は少ないように思います。	収めています。 御指摘のとおり、市でも画一的な既存の看板での対応には限界があると考えております。今年度は公衆喫煙所において、行動経済学の「ナッジ理論」の手法を一部採り入れて、啓発看板の作成をしました。今後も更なる事業展開に活かしてまいりたいと考えます。 様々な機会を捉えて、再生可能エネルギーのPR活動を行ってまいります。 当該啓発については、エコドライブの専門家の御指導を賜りながら、市民にとって分かりやすく実効性の高い学習会等を企画し、啓発を推進してまいります。 毎年、広報しらおか7月号にエコライフDAYの実施記事と一緒に埼玉県と歩調を合わせて掲載しております。
--	--	---

○ 「環境保全型農業推進事業（再掲）」 有機農業どんどん進行してもらいたいものです。白岡で実際に有機農業されている方はいらっしゃるのでしょうか。ぜひ、その方の作った農作物を食べてみたいものです。つまり市民には、その情報が届いていないのが残念です。 ○ 「エコドライブの推進」 エコドライブの推進はどんどん図ってください。ちなみにタイヤの空気圧点検は、どこで誰がどのくらいのタイミングで実施されているのでしょうか。タイヤの空気圧チェックをした記録はありますか。「しましょう！」だけでは、やらない（できない）と思います。ちなみに、さいたま市さんは毎年、職員の方20名にエコドライブの実車研修を受けさせていますが、そのプログラムの中に、庁舎内にあるエアチェッカーの使い方の研修も含まれています。アイドリングストップについても職員の方は正しい知識をお持ちでしょうか。（信号待ち等の道路上以外で）5秒以上の停止が見込まれる場合はアイドリングストップした方が燃料の節約（排気削減）になるわけですが、ご存知なのでしょうか。 ○ 「太陽光発電による節電とCO₂削減・・・」 パワーコンディショナーを早く直してください。	農政課に確認したところ、虫食いや病気などの問題があることから、市内で有機農業を実践している旨の報告はされておられません。 なお、「有機農業研究会」という市内農業従事者の有志により組織されている団体がありますが、実際には県の認証を受けて減農薬、減化学肥料の農業を実践しています。 市が管理している公用車は、運行前点検で乗車する職員に対して、空気圧点検を目視により行うことを義務づけております。しかしながら、運転日誌に記録はするものの、エアチェッカーでは点検することはありません。今後、エコドライブの推進を図るため、エアチェッカーを常備するなど適正な対応について検討してまいります。 当該修繕には多額の経費がかかることから、未だ予算化されておられません。市の財政にも限りがあるので、他の事業との優先順位を見極めつつ、修繕を検討してまいります。
--	---

○ 「緑のカーテン」 緑のカーテンの成功例にならって「エコドライブ講座を受けた方には車用のサンシェードを配布する」というのはいかがでしょうか。駐車時にサンシェードをつけておくだけで、エアコンの使用を少なくすることができ、結果、CO₂の排出削減につながります。サンシェードをもらえるなら講座を受けようかな？という方もいるのではないのでしょうか。 また、白岡には白岡菖蒲インターチェンジや久喜白岡ジャンクションもあり、車社会です。エコドライブは交通事故を半減させるという意味でも命に関わりますしSDGsの達成にもつながる取り組みです。白岡市こそ推進すべき施策の重要なひとつではないのでしょうか。 ○ 「入れ歯の回収」 どれだけ集まるのか分かりませんが、良い施策だと思います。しかし「世界のこども達を救済する」というのは、とても大きな話ですね。反対しているのではなく、こういった文言をもっと他にも使うべきだという意味です。温暖化問題というのは世界の話です。もっともっと大きな視点を市民に持たせても良いのではないのでしょうか。逆に、ここだけ「世界の」と言うと逆に胡散臭くも見えてしまいます。 ○ 「クッキング」 東京ガスさんが社会貢献活動のひとつとして「エコクッキング」という事業を行っています。参考にされてみてはいかがでしょうか。	緑のカーテンでは、講座受講者にゴーヤ2苗を配布しております。しかしながら、エコドライブ講座受講者にサンシェードを配布することは事業経費的に厳しい状況です。今後エコドライブの専門家の御指導を賜りながら、市民にとって分かりやすく実効性の高い学習会等を企画し、啓発を推進してまいります。 市民にワールドワイドな視点を持っていただけるよう、努めてまいります。 東京ガスが主催する「エコクッキング」は、市でも意義深い事業であると認識しておりましたが、地域要件があったため、本市は対象外でした。令和3年度からは、本市も対象になることから、今後検討してまいります。
--	--

○ 「学校教育における環境学習の推進事業」 計画以上であることは素晴らしいことです。将来を担う子どもたちにゴミ拾い等を体験させ環境意識を高めるのは良いことです。しかし、気候変動対策を今すぐ可及的速やかに行わなければ、残念ながらこの子どもたちの将来はありません。 ○ 「環境に関する市民団体や個人の表彰」「環境に関する市民団体のネットワークづくり」白岡市に在住し、環境関連の活動を行っているにもかかわらず、上記のいずれも知りませんでした。もっと効果的な周知を行う必要があるのではないのでしょうか。 ○ 「広報誌やホームページなどでの情報発信」 前にも書きましたが市の公式 Twitter をもっと活用してはいかがでしょうか。空きがありそうですよ。環境に関して面白く尖った発信ができれば、全国的な有名環境団体などにフォローされ、白岡市の知名度アップや、市民の意識啓発につながるかもしれません。市公式 Twitter の運用方針など承知しておりませんので、できることに限界もあるかもしれませんが、0と1では比べ物にならないくらいに違いがあります。 ○ 全般としては、とても良いと思います。	気候変動対策の緊急性に対応した、環境学習が教育現場で展開されるよう、教育委員会に提案してまいります。 なお、白岡市内の小・中学校では、SDGsでの取り組みとして各学校で環境をテーマにした教科横断的な学習を積極的に実施しており、持続可能な開発目標として強い意識を持った活動を進めています。 画一的な周知方法にこだわることなく、創意工夫を凝らしてより効果的な周知、啓発を行ってまいります。 現在、環境課では生き物調査を始め、空家バンクやエコライフDAYなどの情報発信を市の公式 Twitter を活用しております。また、広報紙にこだわることなく、他課のイベント開催の際に、チラシを配布するなど工夫を試みたいと思います。 市のこれからが、優れた環境のもとで市民生活を送ることができる持続可能なまちとして、さらに発展することを念頭に、第2次白岡市環境基本計画を策定しました。
---	--

○ 4、計画が対象とする環境の範囲の中の「地球温暖化＊」ですが、アスタリスクマークが付いているのが気になりましたが、どういった意味なのでしょう。 ○ 先月、公表された国の環境白書に初めて「気候危機」という文言が入りました。昨年度の環境審議会で私からも「異常気象」「地球温暖化」「気候変動」「気候危機」と並べてご紹介しましたが、市の環境基本計画の中にも、この「<u>気候危機</u>」という文言を入れた方が良いのではないのでしょうか。この危機は、ここ10年が勝負と言われています。この10年間徹底した取組をしなければ、人類には止めることのできない気候のフィードバックにより、もはや人類が生存できなくなるほどの熱波が吹く「ホットハウス・アース」になってしまいます。その重要な10年を決める計画ですので、ぜひご検討ください。 ○ 5、計画の全体構成（案）第5章にSDGsへの白岡市（へ）の貢献とありますが、SDGsの文言を入れることは必須だと思いますので大賛成です。しかし、SDGsは分野が広く環境だけではないわけですので、他分野とも連携した包摂的な位置付けとなるようお願いできればと思います。	特に意味がない誤植ですので、削除します。 御指摘のとおり、「気候危機」の回避には今後10年の取組が非常に重要であることから、第2次環境基本計画の中にも「気候危機」を位置づけました。 他分野と連携した包摂的な位置付けとなるようにいたします。
---	--